

[18_03]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1468115>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 18 (3), 1985-05-25. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：



お 知 ら せ

リージョンサイズの大きいジョブの制御方式について

昨年12月頃から本センターも繁忙期に入り、TSSのレスポンスタイムが悪くなってきました。この原因には様々ありますが、その中でも最大の原因と考えられるのが、メモリ多用ジョブによる主記憶不足です。このためバッチジョブ、および、TSSセッションでリージョンが標準値を超えて指定しているものについては、その実行優先度を低くする制御を行います。従って、リージョンは必要な分だけ指定してご利用ください。不必要に大きなリージョン指定を行いますと、レスポンスが悪くなる恐れがあります。

(センターニュースNo.309, 昭和60年2月12日発行)

昭和59年度プログラムライブラリ開発課題(追加)について

センターニュースNo.305以後、採用された開発課題は、下表のとおりです。

昭和59年度プログラムライブラリ開発課題一覧(追加)

開発番号	課 題 名	開発者(所属)	開発期間	開発時間	新規/継続
13.12	IPSPルーチンによるリモートセンシングデータ視覚判読分析のためのプログラム	梅千野 晁 南川 喜伸 加藤 倍敬 (九大・工)	1985. 1.7 \n3.31	300分	年度内 継続
13.13	ADLシステムの機能拡張	長 沢 勲 古 川 由美子 (九大・工)	1985. 1.7 \n3.31	120	年度内 継続
13.14	Prosidユーザのための支援ツールの開発	後 藤 恵之輔 森 正 寿 (長崎大・工)	1985. 1.7 \n3.31	180	新 規

(センターニュースNo.309, 昭和60年2月12日発行)

日本語文章推敲支援ツール「推敲」の使用について

標記システムが使用できるようになりました。文章の推敲作業の支援にご利用ください。このシステムは、コマンドSUIKOUにより起動されます。

なお、このシステムは、昨年7月の「日本語処理講習会」の日より公開してきたものの改訂版です。使用に際しては、文献[1]を参照してください。

参考文献

1. 牛島, 日並, 尹 日本語文章推敲支援ツール「推敲」の使用について, 九大大型計算機センター広報, 18, 1, 9-37, 1985.
2. 牛島, 日並, 尹 日本語文章推敲支援ツール「推敲」の使用について, 九大大型計算機センター広報, 18, 3, 225-242, 1985.

(センターニュースNo.309, 昭和60年2月12日発行)

SPSTINGY, FORTFLOWのレベルアップについて

1. データセット印刷プログラム SPSTINGY

SPSTINGY[1]で, PFD日本語EDITで作成した日本語文章が出力できるようになりました. このためには, オペランドJEFを指定してください(ただし, 出力形式はOC, SC, KC, UCのみ).

2. 流れ図付きソースプログラム作表システム FORTFLOW

FORTFLOW[2]で, 流れ図が縮小形式で出力されるようになりました. 詳細は, 文献[3]を参照してください.

参考文献

1. 吉田 データセット印刷プログラム Super stingy の使用について, 九大大型計算機センター広報, 16, 4, 440-450, 1983.
2. 九大大型計算機センターニュースNo.295, 流れ図付きソースプログラム作表システムの改訂について
3. 牛島, 藤村, 掛下 流れ図付きソースプログラム作表システム — Fortflow の改訂について — 九大大型計算機センター広報, 18, 1, 38-41, 1985.

(センターニュースNo.309, 昭和60年2月12日発行)

Prolog/KRの使用について

Prolog/KRが使用できるようになりました. これは, 東大工学部計数工学科和田研究室(中島秀之氏作成)から譲り受けて移植したものです. このシステムは, 富士通提供のUTILISP[1]の上で動作し, コマンドPROLOGKRにより, このPrologインタプリタが起動されます.

使用に際しては, 英文マニュアルをMANUALコマンドにより出力(オペランドにPROLOGKRと指定)して参照してください. ただし, このマニュアルはVersion C-15用ですので, Version C-16用については, 図書室またはプログラム相談室の資料(東大大型計算機センター作成マニュアル)を参照してください.

なお, 本年9月頃「Prolog系言語講習会」を開催する予定です.

参考文献

1. 九大大型計算機センターニュースNo.300, UTILISPの使用について

(センターニュースNo.309, 昭和60年2月12日発行)

結晶構造データベースシステムXDTのデータの追加について

1月28日からXDT[1]は結晶解析数が1,364増えて、全体で43,745になりました。
化合物数の増加は1,170で、全体で39,189です。

参考文献

1. 河野ほか 結晶構造データベースシステムXDTについて(総合版), 九大大型計算機センター広報16, 6, 1983, 556-604.

(センターニュースNo.309, 昭和60年2月12日発行)

MANUAL コマンドの改訂について

UTILISP, REDUCE, Prolog/KR などの利用者マニュアルの出力機能追加に伴い、標記コマンドを改訂しました。

オペランドなしでMANUAL コマンドを入力しますと、以下の例のように現在入手可能なマニュアルの一覧が出力されますので、その中から1つを選択してください。遠隔地の方で郵送を希望される場合は、LOGON時にDEST (REMOTE) 指定を行ってから、MANUAL コマンドを入力してください。

なお、従来どおりオペランドにマニュアル名を指定する方法でも出力できます。

例.

```
READY
```

```
MANUAL
```

```
FOLLOWING MANUALS ARE NOW AVAILABLE.
```

```
COMMAND ... USER'S MANUAL FOR CENTER COMMAND (IN JAPANESE)
NETWORK ... USER'S MANUAL FOR N-1 NETWORK (IN JAPANESE)
UTILISP ... USER'S MANUAL FOR UTILISP V3.1 (IN JAPANESE)
REDUCE ... USER'S MANUAL FOR REDUCE 3.1 (IN ENGLISH)
SLISP ... USER'S MANUAL FOR STANDARD LISP (IN ENGLISH)
MOVIEBYU ... USER'S MANUAL FOR MOVIE/BYU (IN ENGLISH)
PROLOGKR ... USER'S MANUAL FOR PROLOG/KR (IN ENGLISH)
```

```
SELECT MANUAL-NAME =>
```

(センターニュースNo.310, 昭和60年2月27日発行)

「センター開発収集コマンドマニュアル(第4版)」の改訂について

標記マニュアルについて以下に示すいくつかの改訂を行います。

- 追加されたコマンド REDUCE3

PROLOGKR

- 改訂または内容追加されたコマンド SPSTINGY

MANUAL

GOUT[1]

参考文献

1. 石水, 武富, 平野, 池田, 菅崎, 景川 会話型図形処理システムGRAPHMANの使用につい

て、九大大型計算機センター広報，18，2，1985。

(センターニュースNo.310, 昭和60年2月27日発行)

MTLISTの改訂について

3月4日(月)より、磁気テープボリュームの標準ラベルの内容を印刷するユーティリティ MTLIST を改訂します。変更点は以下のとおりです。

- 1) 出力形式は図1のようになります。従来のダンプ形式の出力(図2)も可能ですがパラメータの指定が必要となります。
- 2) データのないデータセット(見出しラベルと終りラベルのみのデータセット)が途中で存在する場合もボリュームの終りまで処理を続行します。

なお、ラベルなし磁気テープ(NLラベル形式)の出力も可能ですが、データのないデータセットが途中で存在するとその時点で処理を終了します。

使用例1)

```

// EXEC MTLIST
VOLUME = TESTMT          DENSITY = 4
SEQ-NO  DATA SET NAME    SYSTEM CODE    RECFM    BLKSIZE  LRECL  BLKCNT  DATE
0001    ACIN.DATA          FACOM OSIV/F4  VB       00400    00104  000035  85.01.21
0002    MTLIST.DATA         FACOM OSIV/F4  FB       03200    00080  000009  85.01.21
0003    MTLIST2.DATA        FACOM OSIV/F4  FB       03200    00080  000007  85.01.21
0004    MTLIST3.DATA        FACOM OSIV/F4  FB       03200    00080  000008  85.01.21
    
```

図1. 標準形式の出力例

使用例2)

```

// EXEC MTLIST, PARM=DUMP
ボリューム通番 VOL1TESTMT                                QDAI
データセット ↓ 見出しラベル { HDR1ACIN.DATA          TESTMT00010001    85021 000000000000FACOM OSIV/F4
                  { HDR2V004000010440F0022M /PSCOPY      B  51503
データレコード { *** TAPE MARK ***
                  { --- DATA
                  { *** TAPE MARK ***
終りラベル ↓ { EOF1ACIN.DATA          TESTMT00010001    85021 000000000035FACOM OSIV/F4
                  { EOF2V004000010440F0022M /PSCOPY      B  51503
                  { *** TAPE MARK ***
    
```

{ (以下省略)

図2. ダンプ形式の出力例

(センターニュースNo.310, 昭和60年2月27日発行)

INSPEC収録雑誌データベースの更新について

3月5日にINSPEC収録雑誌データベースINSPEC-Jを1985年版に更新しました。収録雑誌数は4,712で、1984年版に比べて242増えています。

参考文献

- INSPEC-Jの検索サービス開始について、九大大型計算機センターニュースNo.219。
(センターニュースNo.311, 昭和60年3月22日発行)

「熱物性値プログラム・パッケージPROPATH」のバージョンアップについて

標記パッケージを昭和60年4月2日付で、第1.1版から第2.1版にバージョンアップします。PROPATH第2.1版では、新たな物質として、空気、二酸化炭素およびメタンの関数が追加され、第1.1版に収録された物質についても関数の数が若干増えます。また、第1.1版では圧力と温度の単位はそれぞれバルおよびセルシウス度に限定されていましたが、第2.1版では圧力の単位パスカルおよび温度の単位ケルビン度が使用できるようになりました。それに伴い圧力と温度の単位をユーザーが指定する整数型コモン変数KPAが追加されますので、ユーザーはプログラムの先頭に以下の2行を追加してください。

```

CHARACTER FLUID*16
COMMON/BLK/FLUID
COMMON/UNIT/KPA ..... 追加される行
FLUID = '物質名'
KPA = i .....
    
```

KPAの値*i*と、圧力および温度の単位との対応を下の表に示します。したがって*i*=1とすれば、第1.1版を使用していたユーザーのプログラムはそのまま使用できます。なお、第1水準異常終了時の関数値は-1.0E+06から-1.0E+10へ、第2、第3、第4水準異常終了時の関数値は-1.0E+03から-1.0E+20へ変更されます。詳細は追って広報[1]でお知らせします。

KPAと圧力と温度の単位の対応

KPA	圧力の単位	温度の単位
0	Pa	K
1	bar	℃
2	bar	K
3	Pa	℃
その他	Pa	K

参考文献

- 伊藤, 黒木, 茂地, 高田, 本田, 増岡, 松本, 安田, 山下 PROPAT: 熱物性値プログラム・パッケージ, 九大大型計算機センター広報, 18, 3, 1985
(センターニュースNo.311, 昭和60年3月22日発行)

昭和60年度プログラムライブラリ開発課題について

本年度分として採用された開発課題は、下表のとおりです。

開発番号	課 題 名	開発者(所属)	開発期間	開発時間	新規/継続
14.1	ADLシステムの機能拡張	長 沢 勲 古 川 由美子 (九大・工)	1985. 4. 1) 1985. 8. 31	300分	継 続
14.2	熱物性値機械計算汎用プログラムパッケージの開発	伊 藤 猛 宏 黒 木 虎 人 高 田 保 之 (九大・工) 加 藤 泰 生 宮 本 政 英 (山口大) 茂 地 徹 (長崎大) 本 田 知 宏 山 下 宏 幸 (福岡大) 増 岡 隆 士 安 田 嘉 明 (九工大) 松 本 健 一 (久留米高専)	1985. 4. 1) 1986. 3. 31	180分	継 続
14.3	ユーザ定義文字のNLP出力支援プログラムの開発	国 宗 真 (福女大) 吉 田 和 幸 (大分大・工)	1985. 4. 1) 1986. 3. 31	300分	継 続
14.4	日本語 SNOBOL4 の整備	牛 島 和 夫 (九大・工) 吉 田 和 幸 (大分大・工)	1985. 4. 1) 1986. 3. 31	60分	継 続

開発番号	課 題 名	開発者(所属)	開発期間	開発時間	新規/継続
14.5	日本語推敲支援ツールの高速化と拡張	牛 島 和 夫 尹 志 熙 石 田 真 美 松 尾 篤 弥 荒 木 啓 二 郎 高 木 利 久 (九大・工)	1985. 4. 1 } 1986. 3. 31	180分	継 続
14.6	IPSPルーチンによるリモートセンシングデータ視覚判読分析のためのプログラム	梅干野 晁 加 藤 倍 敬 (九大・工)	1985. 4. 1 } 1986. 3. 31	420分	継 続
14.7	Prosid ユーザのための支援ツールの開発	後 藤 恵 之 輔 森 正 寿 (長崎大・工)	1985. 4. 1 } 1986. 3. 31	300分	継 続
14.8	3次元固有関数系の節曲面の特異点探索アルゴリズムの開発	大 協 信 一 (熊大・教養)	1985. 4. 1 } 1986. 3. 31	180分	新 規

(センターニュースNo.311, 昭和60年3月22日発行)